

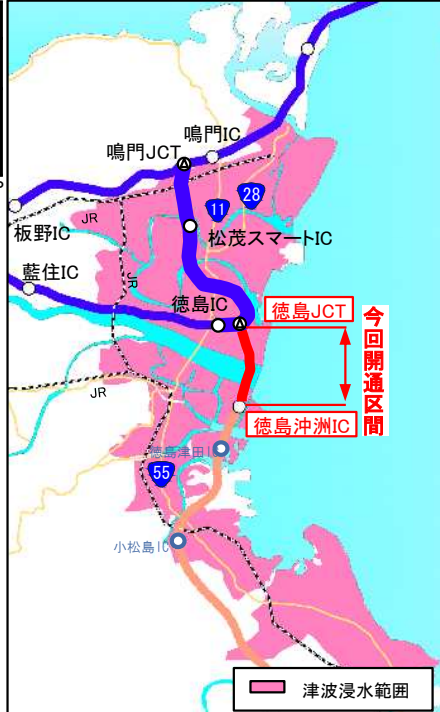
○南海トラフ地震による最大クラスの津波発生時には、広範囲で浸水被害が予測されています。
 ○今回開通区間は最大津波浸水深さより高く、緊急輸送路としての機能が期待されます。
 また、徳島沖洲IC～阿南IC(仮称)(新直轄区間)の整備により、高速道路ネットワークとして更なる機能向上が期待されます。

▼南海トラフ地震の発生確率(H30. 1)

長期評価で予想した地震規模(マグニチュード)	地震発生確率		
	10年以内	30年以内	50年以内
M8～M9クラス	30%程度	70%～80%	90%程度もしくはそれ以上

出典:地震調査研究推進本部HP

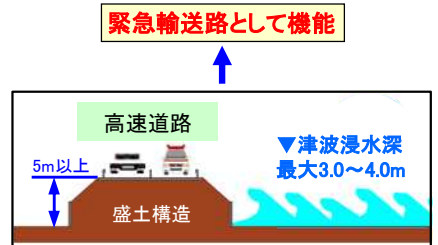
▼徳島県東部の津波浸水予測範囲



出典:徳島県HP

▼高速道路と津波浸水深のイメージ図

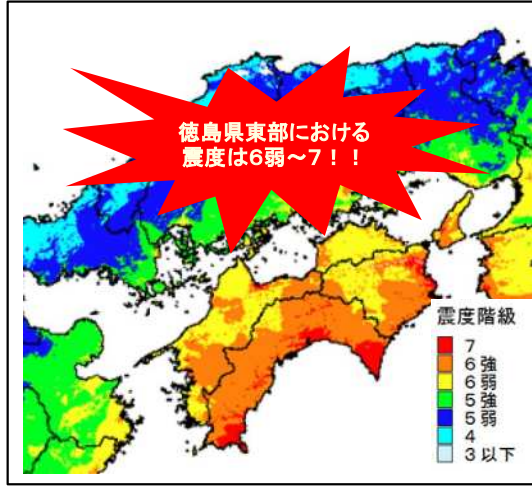
計画区間の予測
 震度6弱～7 最大津波浸水深3.0～4.0m



■広い範囲が浸水する予想となっていますが、当区間は盛土構造のため、津波に対する防波堤となり被害範囲が減少するものと考えています。
 ■高速道路ができることにより、防波堤としての機能も加わることになります。
 【徳島県とくしまゼロ作戦課ヒアリング】

■南海トラフ地震発生時等、緊急消防援助隊県外応援部隊が市内へ進入する際のルート確保として、大きな期待が出来ます。
 【徳島市消防局ヒアリング】

▼南海トラフ地震による震度分布(H25. 5)



出典:中央防災会議HP

○既開通区間(徳島IC～鳴門JCT)では、沿線市町と連携し高速道路区域を活用した津波避難場所を11か所整備しました。
 ○今回開通区間(徳島JCT～徳島沖洲IC)についても、新たに3か所整備しています。

▼高速道路沿線における津波避難困難地域及び津波避難場所整備箇所



出典:避難困難地域(津波避難計画)(徳島市、松茂町、鳴門市)、地域防災計画(北島町)

▼津波避難場所(盛土タイプの完成イメージ)



■津波避難場所が整備され、地域住民からは「今まで周囲に避難場所がなかったので不安だったが、万が一の備えができ安心している」という声が寄せられました。また、地域住民の防災意識も向上し、自主的な防災訓練も計画され、町の防災の更なる強化を進めていきたいと考えています。
 【北島町役場ヒアリング】

■災害発生時に緊急車両や災害復旧車両などが出入りできる緊急連絡路としての機能や、津波避難困難地域で暮らす方々にとつての避難場所としての機能が考えられます。高速道路の防災面での期待は高いです。
 【徳島県とくしまゼロ作戦課ヒアリング】